

## 平成 25 年度 第 2 回 松阪市環境審議会 議事録

日 時 : 平成 25 年 10 月 30 日 (水) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

場 所 : 松阪市役所本館 議会棟 3 階 理事者控室

出席者 : 17 名

審議会委員 13 名

富田靖男 (会長)、門暉代司 (副会長)、大橋純郎、小林典子、  
杉崎清子、鈴木宏武、須藤 弘、竹内英樹、田畑繁行、  
中村陽子、野田宰治、前田多香子、牧戸継右

事務局 4 名

磯田環境部長、武田環境課長、  
山口環境推進担当主幹兼環境推進係長、環境推進係 (垣本)

傍聴者 : なし

### 〈議 事〉

#### 1. 平成 25 年度における松阪市環境基本計画重点事業について

- ・第 3 章について事務局より説明。

会長 : 何かご意見ありますか？

委員 : P21「重点事業 1」の事業実施結果において『このことから、～達成されたもの  
と考える。』と記述されているが、このことだけで基本目標が達成されたとするの  
は如何なものか？今後も事業を続けていくのであれば、この文言は違和感が生じ  
る。

事務局 : 担当課と検討する。

委員 : P30「重点事業 10」は目標未達成であるにも関わらず、来年度の目標から集団  
回収量を外すのは良いのか？ごみの減量を図るのであるならば、回収量を目標に  
するのが妥当ではないのか？また、税金を使った補助金交付を増やすよりも、も  
っと違う方法を考えるべきではないのか？

事務局 : 集団回収量は団体からの申請数量であるため、曖昧な数値になりがちである。  
そのため、目標を「補助金交付団体を増やす」ことに変更したと聞いている。税  
金を投入するという件については、担当課と検討する。

副会長 : 関与している自治会数は？

事務局： 松阪市全体の自治会数は 442 あり、H24 年度の補助金交付団体は 306、そのうち集団回収を行っている自治会は 216 と、担当課から報告があった。216 以外の団体の中には、子ども会や老人会などがあると聞いている。

委員： 資源回収は子ども会の財源になるので、あえて自治会がやらないのでは？

会長： そのあたりについては精査してもらおう。

委員： ゴミの減量化が目的であるのに、補助金交付団体数の増加を目標にするということが、果たして指標となり得るのか？

副会長： ゴミの減量のために資源物（リサイクル）の量を増やすということは指標になる。

委員： 全体のゴミ量が減れば、資源物の量も減ると思う。目標未達成の理由がこれだけだとは限らないのでは？

事務局： 目標や実績の標記が曖昧であり、松阪市全体のゴミ量、資源物の量などが明確されていないためわかりにくいと思う。担当課と協議の上、表記の仕方も含めて数値を一覧表にしたものを、後日委員の皆様に送付する。

委員： P23「重点事業3」だが、ここでいう利用者のニーズとは何か？ネットを使えない人たちへの、情報通信ツールは？

事務局： H21 年度に世帯アンケートを実施し、その結果を基に H23 年 4 月にダイヤ改正を行った。利用者ニーズの把握方法については、担当課が検討中である。

副会長： バス利用者アンケートの実施が望ましい。

会長： 時間帯が少ないのもあるが、路線バス利用者も減ってきている。

委員： コースや時間帯の改善や、アンケートの実施等を行うべき。

事務局： 今後の検討課題にも市民ニーズに合わせるとしているので、担当課には今回の意見を伝える。

委員： 高齢者の免許返却者に対し無料パス等を配布するなど、そういうことに税金を使うべき。

委員：事業概要が交通手段の無い人達のためとあるが、これが果たして大気汚染の防止につながるのか？

委員：基本目標と事業概要にズレがあるように思う。

会長：毎回問題となる事業なので、もう少し検討するべきである。

委員：P27「重点事業7」だが、来年度の目標が高すぎるのでは？

事務局：H25年度に浄化槽の補助金制度が変更され、転換の場合に増額されるようになったことと、消費税増税前の駆け込み利用者の増加を見込んで目標数値を増やした。

委員：新築を減らして転換を増やすべきなのではないのか？

事務局：今年度の動向をみて検討する。

・第4章について事務局より説明。

委員：P38「生活排水処理施設の普及率の向上」で、H29年度の「80%以上」後の目標はないのか？

事務局：現在の環境基本計画の最終目標年度がH29年度であるので、その後については基本計画の見直しを行って行く予定である。

委員：P35の環境基準適合状況の表だが、「適合率100%＝水がきれい」と受け取られて誤解を招くのではないか？海は類型が1つで基準値が一致しているが、河川は類型も基準値もそれぞれ異なる。適合率が良ければランクが上がるとか、悪ければ下がるとか、そういったことがあれば現実的で意味があるように思えるのだが。

事務局：河川がきれいになれば類型が変わる可能性はあると思う。

副会長：下水道が普及すれば、河川は綺麗になると思う。

会長：そのあたりは検討してほしい。

## 2. 平成 25 年度における松阪市環境パートナーシップ会議の進捗状況について

・事務局より説明

### 3. その他

委員 : 太陽光発電システムの教育機関への設置予定はあるのか？

事務局 : 現在の建物は、太陽光パネルの耐久性や日当たりの角度など、問題点が多々ある。市では、自然エネルギーを活用したまちづくりを推進するため、今後の公共施設の改修や改築の際には、エネルギー対策を反映させるべく、太陽光発電やバイオマス等も含めた自然エネルギー導入の方向で検討中である。

事務局 : 今回頂いたご意見を基に市長への意見書を作成するが、それは会長・副会長一任で構わないか？

委員 : 願います。(全員)

会長 : では、今日は終わります。